■大阪夕陽丘学園高等学校　2023年度事業計画内容

| 項　目 | 内　容 | 目　標 |
|---|---|---|
| 1.組織改革 | ①鍋蓋型からピラミッド型への改革<br>・管理職以外横並びという意識があるが、校長とトップとしたガバナンスを構築 | 現行の働き方（個での働きや組織としての積上げの無さ）を、私学にとって大切な<br>経営に必要な組織的な運営（組織的に働くことに大切さ）に切り換えて行く。 |
| | ②主幹教諭と指導教諭を配置<br>・「職」として主幹教諭と指導教諭が配置され、よりピラミッド型の組織運営を実行する。 | |
| | ③校務運営委員会の役割の推進<br>・校務運営委員会のメンバーが増えることでより役割を強化して、学内でのガバナンスを構築する。 | |
| | ④縦的な構造への改革<br>・今年度はコース制と学年制の両立を目指す。縦と横で組織運営することで、より丁寧な指導にあたる。 | |
| | ⑤組織と組織のつながりの強化<br>・分掌・学年・コースなど、小さい組織単位での動きを多くする一方で、横のつながりを強化し、組織的敵に機能する。 | |
| 2.教育改革 | ①2022年度学指導要領の全面改定への対応<br>・2022年度から実施された学習指導要領が全面改定に対して、本校では今年度から本格的に実施する。 | |
| | ②言語技術導入<br>・つくば言語技術教育研究所と連携し、言語技術(ランゲージアーツ)を学校設定科目として実施する。 | 今年度も教員5名がつくば言語技術教育研究所で研修を受ける。 |
| | ③PBL型研修旅行導入<br>・very50aと連携し、修学旅行をPBL型の研修旅行への変更するし、実施する。 | ver50との連携をとり、取り組みを行う。 |
| | ④GIGAスクールへの対応<br>・まだまだ終わることのないコロナ禍でのICT利用をした学習活動を継続実施する。 | プロジェクター、iPadの使用率を高める。 |
| | ⑤新コース設置に向けた準備<br>・OYG教育センター未来志向型教育開発室と連携し、新コースの設置を模索し、開発する。 | 2024年度から自己探求コースの設置を目指す。 |
| 3.教学面における改革推進 | ①自習室の運用<br>・自律した学習者の育成を目指し、放課後の時間を利用して、自らの課題を自ら発見し取り組む | 毎回、100名以上の利用者を目指す。 |
| | ②全人教育<br>・建学の精神に基づく人格形成のための教育活動の実践 | 建学の精神を落とし込む。 |
| | ③スクールポリシーの策定<br>・グラデュエーション、カリキュラム、デュプロマにおけるポリシーの策定 | 全教員が同じ方向で指導できる体制をつくる。 |
| | ④授業改革<br>・自主的な学び、深い学び、対話のある学びを実現する授業 | 授業見学会を実施し、他からの意見を貰う事で授業改善に努める。 |
| | ⑤教師力の向上<br>・教員における組織的なFD/SD研修の検討と実践 | 夏休みに研修会を実施する。 |
| 4.生徒募集 | ①建学の精神の実践<br>・来年度から毎年、大阪府下で中学生3年生が1,000人規模での生徒数が減少する。建学の精神を前面に打ち出し、募集活動をすることで他校との差別化を実現する。 | 建学の精神を理解する。専願者を350名確保する。 |
| | ②出口戦略<br>・どういう方法で進学するのかを明確にする事で、より高い目標を描く。 | 450名以上生徒数を確保する。 |
| | ③入試広報活動の強化<br>・塾対策の強化と、中学校教員へのアピール強化推進 | |
| | ④転退学者の減少<br>・併願入学者が200名近くなる中、1年生の初めのオリエンテーションを1週間とし、丁寧な指導をおこなうことで、ミスマッチをなくす。 | 転退学者を5%以内にとどめる。 |
| | ⑤強みを再確認する<br>・強みを再確認し、アピールすることで毎年450名以上の生徒を確保する。 | 強みを再確認することは、地域における大阪夕陽丘学園高等学校の存在意義を<br>理解する。 |
| 5.学外機関との連携 | ①SDGsの推進<br>・生徒会活動を中心にSDGs活動への取り組みを実施する。 | 生徒会活動を中心にSDGsを広げる。 |
| | ②「総合的な探究の時間」の活用<br>・色ろいな学外機関との連携をきっかけに学校という枠を超えて学習する機会を構築する。 | 学内だけでの教育活動では限界がある。<br>他期間との連携を実践する。 |
| | ③他校との連携<br>・武蔵野大学高等学校・青翔開智高等学校・大阪高校・香里ヌベール高等学校など、他校との連携を図る。 | |
| | ④各企業との連携<br>・各企業とつながることで生きる力を身に付ける。どんな取り組みができるか模索する。 | |
| | ⑤IFU・台湾サポートセンター・ISAとの連携<br>・英語国際コースを中心に海外大学への進学を推し進める。 | 海外大学の進学者10名を目指す。 |